

本件は、国への報告対象トラブルではありませんが、炉心確認試験期間中に発生したものであり、参考までにお知らせするものです。

高速増殖原型炉もんじゅ
「プロセスモニタ故障」 警報の発報及び復旧について

1. 発生日時： 平成22年 5月17日（月） 10時48分頃
2. 発生場所： 高速増殖炉研究開発センター
高速増殖原型炉もんじゅ 原子炉補助建物（管理区域）

3. 状 況：

高速増殖原型炉もんじゅ（定格出力28万kW）は、現在、原子炉停止中のところ、「プロセスモニタ故障」警報が発報し、補助盤にて「放射線管理室排気モニタ*ラック異常」の警報が発報しており、現場を確認したところ、流量異常によりサンプルポンプ（A）が停止していました。

【5月17日13時00分 お知らせ済】

原因調査の結果、放射線管理室排気モニタの「ろ紙送り装置」において、ろ紙の取付方法が適切でなかったことから、ロール状のろ紙が巻き取り機構のローラからずれた状態となっていました。そのため、サンプル流量の異常が発生し、サンプルポンプが停止したものと判断しました。

その後、新しいろ紙に取り替え、ろ紙送りが正常であることを確認したうえで、16時59分にサンプルポンプ（A）を再起動し、サンプル流量指示値及びモニタ指示値が安定したことをもって、同モニタが正常な状態に復旧したことを確認しました。

なお、放射線管理室排気モニタが停止しても後段の排気筒モニタで連続監視しており、その指示値に変動はないことから、環境への影響はありません。

*：管理区域への出入管理室や分析室等の排気の監視

以 上